

## SOCIAL

## 「Go To商店街」でまちを元気に 茨木・中条まちづくり商店会

新型コロナウイルス感染症拡大で被害を受けた商店街などを支援する「Go To 商店街」が始まった。10月初旬の先行募集では全国から34事業者、大阪府では3事業者が選ばれた。11月10日までには全国で169件が採択されている。北摂では茨木市の「中条まちづくり商店会」が一番に名乗りを上げ、注目を集めた。

Go To 商店街とは、商店街がイベントなどを開催することで地元で活気を取り戻してもらおうと、国が一定の支援をする事業。イベント開催や商材の開発、プロモーションの制作などが対象で、基本的には300万円を上限に※、3密対策など感染拡大防止対策を徹底することが必須条件だ。(※条件によって変動あり)

中条まちづくり商店会は「第14回灯りのプロムナード事業」を提案。JR茨木駅東口から市役所へと向かうメインストリート「東西通り」約300メートルを、イルミネーションが華やかに彩る。今年はコロナウイルスの影響で、同商店会に加盟する「ヘアサロン喜美」では売り上げが半分近く減少。ほかの店舗も軒並み客足が遠のいたという。同商店会会長の田峰泰久さんは「どの店も大変でしたが、こうい

時だからこそ、例年通りイルミネーションを開催するつもりでした。そこで、ちょうど発表されたGo To 商店街にダメ元で応募しました」。市からコロナ対策支援の援護もあり、支援金300万円ほぼ全額をLEDの購入費や工事費などに充てた。今年はLED約4.5万球を使い、例年の4倍近くの規模で実施するほか、市の民話などを書いたプレートをつるすなどして通行人を楽しませる。

田峰さんは「町を明るくしたいという思いでやってきたので、コロナでも開催できて良かった。まだ20年目の新しい商店街ですが、みんなで前向きに頑張っています。地元や近隣の方に『イルミネーションがあるから行ってみようか』と思ってもらえればうれしいですね」と話している。

同商店会のイルミネーションは11月25日から来年1月24日まで。12月中旬からは市主催で、同商店街ほか市内複数か所のイルミネーションスポットを巡るスタンプラリーも開催される予定という。

### 一 吹田市でも

吹田市では、JR吹田駅周辺の飲食店など計47店舗が参加する食べ歩きイベ



昨年のイルミネーション。今年は約4倍の規模で開催する。中条まちづくり商店会のみなさん(前列左は田峰会長)。ヘアサロン喜美で。



ント「第9回吹田バル」(主催=吹田バル実行委員会)、雑貨やアクセサリのクラフト作家が出店する手作りマルシェ「第20回ビレッジマート吹田」(主催=じゃない吹田)、「GO TO 吹田市旭通商店街」(主催=吹田市旭通商店街協同組合)が Go To商店街事業に採択された。

「吹田バル」は例年9月中旬に行われているが、今年はコロナの影響で11月に延期となった。「ビレッジマート吹田」は、毎月1回の開催を予定していたが、コロナの影響で今年の2月から中止に。7月に一度、開催したものの再び中止となり、9月から再開した。

「GO TO 吹田市旭通商店街」では、

無料通信アプリ「LINE」を使ったキャンペーンを行う。これを機にスマートフォンを使用する若い世代を取り込み、今後につなげるねらひだ。

北摂ではこのほか豊中市の「おかまち・さくらづかテイクアウト・デリバリーフェア」(岡町商店街振興組合ほか)が採択されている。(11月10日時点)



「GO TO吹田市旭通商店街」で「LINEのお友達登録ブース」に並ぶ人たち

## SOCIAL

## 地震追って90年 —高槻・京大阿武山観測所— 下

1930年設立の京都大学防災研究所附属地震予知研究センターの阿武山観測所(高槻市奈佐原)は、知られざる展望の名所だ。大阪平野を眼下にし、淡路島や関西空港も望める。2kmほど南に名神高速が走るの見えるが、その付近にはよく知られた活断層「有馬-高槻断層帯」があり、重要な観測対象となっている。

活断層が地震の原因になることは、「六甲-淡路島断層帯」が起こした阪神・淡路大震災(1995年)で広く認識されることとなった。「有馬-高槻」は神戸市の有馬温泉の西から池田市、箕面市などを経て高槻市北部に至る約55km。これがあるから阿武山に観測所ができたと思う方がいるかもしれないが、所長の飯尾能久(よしひ

さ)・防災研教授=地震学=によると、設立当時は活断層という概念自体なく、「有馬-高槻」の存在も全く知られていなかったようだ。

「有馬-高槻」は1596年の慶長伏見地震の際に活動した。この時、豊臣秀吉の伏見城が倒壊、史実とは認められないが、歌舞伎や落語には加藤清正が秀吉をおんぶして脱出させる話がある。活動間隔は1千~2千年に一度程度と考えられ、阪神・淡路や2018年の大阪北部地震でも動いていないという。ただ飯尾所長は「断層近くは地震波が大きくなり、被害を受けやすい。それに『六甲-淡路島』は慶長地震でも動いており、『有馬-高槻』が活動しない保証はない」と話す。

マグニチュード6.1の大阪北部地震は高槻市付近が震源だった。ブロック塀が倒れ、女児が亡くなるなどした被害は記憶に新しい。政府の地震本部は周辺にある「有馬-高槻」「生駒断層帯」「上町断層帯」は直接の関係はないと推定し、未知の二つの小さな断層が別の方向にずれたとみている。

飯尾所長は「そもそも近畿は活断層が多く、内陸地震が起きやすい」と警告する。さらに南海トラフ巨大地震の心配もある。地震本部によると、30年以内に発生する確率は70~80%だ。「北摂の方は大阪北部地震で怖い思いをされただろうが、もっと大きな地震がいつ起きても限らない。家具を固定するなどできる備えを確実にやっておいてほしい」



(上)空から見た阿武山観測所。変化のある建物配置となっている=高槻市奈佐原、同観測所提供(右)観測所地下の展示室にあるガリチン地震計。世界で始めて揺れを電気信号に変換して記録し、より小さな揺れも観測できた。阿武山では1938年から使われた

(コロナ禍で休止していた阿武山観測所の見学会が11月から再開されました。詳しくはホームページ([https://abuyama.com/NEW/open\\_tour.php](https://abuyama.com/NEW/open_tour.php))で。参加無料。)

## SOCIAL

## 豊中市 キッチンカー実験 夏に続き2回目を実施中

豊中市は10月、公園や住宅街で夏に実施したキッチンカーの社会実験の結果を公表した。結果を踏まえ、2回目はさらに期間を延ばし、11月から来年1月末まで実験を実施している。

市では市民生活の利便性向上のため、キッチンカーの仲介事業を手掛ける東京の事業者と連携し、キッチンカーを出店させる社会実験を今夏に行った。期間は8月17日

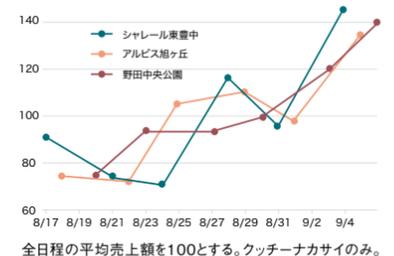
~9月6日、場所はシャレール東豊中(東豊中町6)、アルビス旭ヶ丘(旭丘2)、野田中央公園(野田町9)の3か所それぞれ毎週2日、計18日間実施。イタリア料理店「クッチーナカサイ」が手掛ける「モナの幸せごはん」とたこ焼き店「咲たこ」の2店が出店した。

全日程に参加したクッチーナカサイには計966人が来店。回を重ねるごとに口コミやメディアでの紹介もあって周知が

広がり、売上率の上昇がみられた。購入者の年齢層は30~70代以上と幅広く、子育て世帯・高齢者など外食が難しい人からは「徒歩圏内で気軽に本格的な料理が食べられてうれしい」などの声もあり、地元住民からは好評だったという。

アンケート調査では、継続希望や、開催場所やジャンルなどを増やしてほしいなどの要望もあった。市内のキッチンカー事業

売上率の推移



者の参入を促進するため、開業支援のセミナーを11月2日に実施。今後も社会実験の結果を踏まえ、実施場所の拡大や継続実施に向けた検討を進めていくという。